

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2014

法面機械
構台足場

被災地で活躍

日綜産業 重量物や起伏に対応

日綜産業の法面機械構台システム足場工法「法面8号」が、東日本大震災で被害を受けた東北各地で活用が進んでいる。現在進められている仙

台市発注の「旗立緑地急傾斜地防災工事」(施工・技研興業)にも採用されて効果を発揮しており、今後、被災した多くの宅地復旧や法面の地すべり対策工事などの発注が予定さ

れている中、同工法の活用もさらに広がりそうだ。法面8号は、アンカー工事やボーリング工事での削孔機などを設置する機械構台や乗り入れ構台として使用する足場。クサビ式足場支保工のニ

ッソト3Sシステムの利点を生かし、従来、手間と時間を掛けて製作していた構台足場をより簡単に安全に施工・盛り替えてできるようにした。ハンマーで組立・解体が可能なほか、組立後は削孔機などの振動でもクサビは緩まらず、起伏の多い場所にも容易に対応できるといったメリットがある。



仙台市発注工事で採用された「法面8号」

ニクレーン、さらに鋼管杭自体も重量物で、通常の単管足場では荷重的に耐えられないことから、「法面8号」を採用した。現地では、住宅に近接する急傾斜地に沿って長さ約140㍎、幅約4㍎にわたる足場が

り替えてできるようにした。ハンマーで組立・解体が可能なほか、組立後は削孔機などの振動でもクサビは緩まらず、起伏の多い場所にも容易に対応できるといったメリットがある。

仙台市太白区山田北前町で行われている旗立緑地急傾斜地防災工事は、震災で一部被災した同緑地の地すべりを防

止するため、長さ約90㍎にわたって直径350×450㍎、長さ9-11㍎の鋼管杭を打ち込む。鋼管杭を打設するためのボーリングマシンや杭を運ぶカ

リクレーン、さらに鋼管杭自体も重量物で、通常の単管足場では荷重的に耐えられないことから、「法面8号」を採用した。現地では、住宅に近接する急傾斜地に沿って長さ約140㍎、幅約4㍎にわたる足場が

日刊建設産業新聞

発行所
 日刊建設産業新聞社
 本社 東京都板橋区板橋1-48-9
 〒173-8710 電話 03(3961)1691(代表)
 ファックス 03(3961)2251
<http://www.kensan-news.com/>
 支社
 大阪、神奈川、九州、中国、東北、甲信越
 支局
 埼玉、中部、神戸、岡山
 © 日刊建設産業新聞社 2014

日綜産業が現場見学会

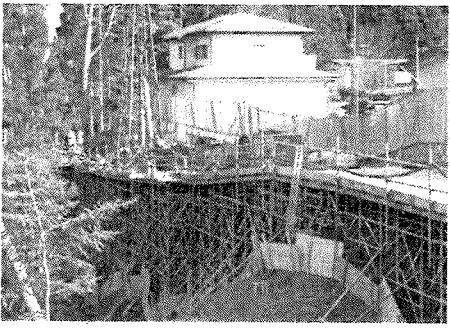
NISSO法面8号が威力発揮

旗立緑地急傾斜地防災工事

日綜産業は7日、災害復旧・防災工事で活躍している同社開発のNISSO法面8号を採用している仙台市太白区役所建設部公園課発注の「旗立緑地急傾斜地防災工事」(施工：技研興業)で現場見学会を開いた。

現場は仙台市太白区山田北前町地内外の緑地指定の急傾斜地で、東日本大震災の影響を受けて地盤沈下など近隣住宅への被害を最小限に食い止めるために実施されている

防災工事。A、B、Cの3区域にわけ斜面対策を行い、緑地斜面の頂上部分に建つ民家の裏側部分の地滑り対策と杭打ちボーリングマシンの足場確保対策にNISSO法面8号を採用している。



法面8号を採用した急傾斜地の防災工事現場

法面8号は、クサビ式足場支保工のニッソー3Sシステムの利点を活かし、より簡単に安全に施工・盛りの替えができるようにした機械と乗り入れ構台用の足場。現場代理人の武内次男氏は「H鋼の構台も検討したが、現場の状況では法面8号が適切と判断した」と語り、発注者である仙台市では「現地の法面の様々な材質に対応できるのはNISSO法面8号と考えて設計に織り込んだ」と法面工事の安全作業を高く評価している。

法面8号は、ハンマ一本で組立・解体

が可能で、組立後の削孔機などの振動によるクサビの緩みが無いことが特徴。アンジュレーションの多い場所にも容易に対応でき、各部材は最小限の大きさで人手の運搬が可能で、防錆性に優れ、規模にあわせた豊富な種類と部材を揃え、システム式で構台の盛り替えが自由になっている。

建設新聞



発行所
建設新聞社

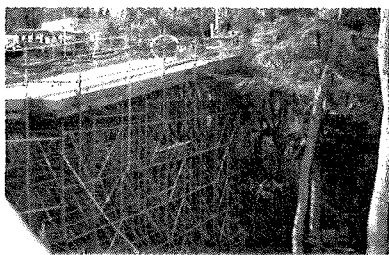
〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-5
市外局番(022)221-下記番号
総務部 4601 FAX221-4633
編集部 4602 FAX217-4170
編集事業部 4603 FAX221-4637
営業部 4604 FAX268-6416
編集事業部情報室 4606 FAX221-4637

©建設新聞 2014

防災工事で「法面8号」が活躍

安全性・施工性を評価

日綜産業



現場の様子

仙台市発注の旗立緑地急傾斜地防災工事で、日綜産業の法面8号機械構台システム足場が活躍している。現場はJR仙台駅から車で20分程の仙台市太白区山田北前町地内外で、工事規模は切土整形(掘削量390・8

立方メートル、張芝工251・7平方メートル)、抑止対策工(φ400ミリ杭長9・5メートル、φ350ミリ杭長9・0メートル、φ450ミリ杭長11・0メートル28本)、仮設工一式、舗装工一式など。施工は技研興業で、工期は2013年8月28日から14年3月14日まで。進捗率は1月末時点で62割となり、当日は杭径450ミリ、杭長11メートルの抑止杭を場所打ちする作業が行われていた。法面8号は、アンカー工事やボーリング工事での削孔機などを設置する機械構台や乗り入れ構台として使用する足場で、

NETIS登録済み。▽ハンマー一本で組み立て可能▽溶融重鉛メッキによる優れた防さび・耐久性▽最小限・最軽量で運搬が容易▽起伏が多い場所でも容易に対応などの特長があり、耐久性はもちろんのこと、運用性にも優れたシステム足場となっている。

現場では約130メートルあたり法面8号を活用しており、その上を11メートルの鋼管を積んだキャリアダンプ、11メートルのボーリングマシン、4メートルのカニクレーンなど重量物が行き来する険しい場所となっている。現場代理人の武内次男技研興業工事部長は「通常の単管足場では荷重に耐えられないとのことだったので日綜産業のシステム足場を採用した。」

重量物が行きかう現場でも活躍できる堅固な足場で、大いに助かっている」と評価した。

